

岡崎 敬 氏 学位審査結果の要旨

主査：中邨 智之

副査：伊藤 誠二、権 雅憲

炎症性腸疾患においては小胞体ストレスの亢進が報告されている。本研究では、デキストラン硫酸ナトリウム (DSS) 投与マウス大腸炎モデルを用いて、小胞体ストレス経路の一つである PERK-eIF2 α 経路の病態への関与を検討した。eIF2 α の脱リン酸化を阻害する Salubrinal を投与すると、腸組織における eIF2 α リン酸化の増大、小胞体シャペロン GRP78 の増加とともに DSS による腸炎が軽減した。また炎症性サイトカイン TNF α 、IL-1 β の産生も Salubrinal 投与群で低値であった。本研究は、炎症性腸疾患に対して従来の抗炎症薬とは全く異なる作用機序の治療薬があり得ることを示したものであり、学位に値する。